

GOAL!

2006(平成18)年3月30日鑑賞(東映試写室)



監督＝ダニー・キャノン／出演＝クノ・ベッカー／スティーヴン・ディレイン／アンナ・フリエル／アレッサンドロ・ニヴォラ／マーセル・ユレス／ショーン・パートウィー／トニー・プラナ／ミリアム・コロシ（東芝エンタテインメント配給／2005年アメリカ・イギリス合作映画／118分）

……3月21日、考えられない視聴率を記録して、日本列島を席卷したのは「王ジャパン」率いるWBC戦だったが、サッカーだって負けてはいない。ラテン系のアメリカ青年が、多くの困難を乗り越えてイングランドのサッカーチームで成功するまでのサクセスストーリーは、ストーリーの先が読めるとはいえやはり感動的！ 本人の努力が第1であることは当然だが、「成功」に不可欠なものは先輩や同僚そして恋人たちとのめぐり合い……。さまざまな人に支えられてこそその成功であることを、今さらながら実感し、最後の「ゴール」を固唾をのんで見守ろう……。

映画の感動はサクセスストーリーで十分……

この映画はひと言で言えば、メキシコからアメリカに亡命したサッカー大好き少年が、成人した後、あるスカウトから注目されたことを契機として、一途に自分の夢を追い求め、遂にイングランドのチームで成功をおさめるというサクセスストーリー。

「トライアル」を受けるまでの苦労をはじめとして、一方では失敗の連続により再三の挫折感を味わいながら、他方では本人の努力はもちろんだが、良きスカウト、良き先輩、良き同僚、そして良き恋人たちの支えを受けることによって、最後のゴールを決めるまでの過程は、ストーリーが先読みできるとはいえやはり感動的……。とりわけこの映画が人間ドラマの幅を厚くしているのは、孫の成功

を願う祖母の愛情をはじめ、夢を追うことを禁じ、ただひたすら勤勉に生きていこうとする父親と、サッカーの夢を追い求める息子との確執を大きく描きながら、それが和解に至るプロセスを感動的に観客に示していること。映画の感動は、こんなわかりやすいサクセスストーリーで十分……。

何よりも大切なことは人との出会い……

10歳のサッカー大好き少年が、メキシコから父親のハーマン・ムネス（トニー・プラナ）に連れられて祖母のメルセデス（ミリアム・コロン）や弟とともにアメリカに不法入国してきたのは、とにかく家族で生きていくため。

今サンティアゴ・ムネス（クノ・ベッカー）は20歳となり、地元のラテン系サッカーチームのスター選手でプロになる夢を持っていたが、父親は家族を養うことだけを考えて、日々黙々と働くだけ。そんな中、サンティアゴは、元サッカー選手で今はスカウトをしているグレン・フォイ（スティーヴン・ディレイン）からその才能を認められ、イングランドのチームに来るよう勧められたが、それは父親のハーマンにとっては迷惑この上ない話。しかしサンティアゴにとっては、このグレンとの出会いがすべての出発だった。

こんな出会いは人間必ずどこかにあるもの。大切なことはそれをいかに自分のものとして実感し、いかに活かすかということ。さて、サンティアゴは、このグレンとの出会いを活かすことができるのだろうか？

捨てる神あれば拾う神あり……？

サンティアゴはサッカーの練習に打ち込みながらも、父親の元で黙々と働き、「スニーカー貯金」をしていたが、それはある目的のため……。他方、父親はトラックを買って独立しようと考えていたが、サンティアゴがグレンと出会い、変な夢の実現のために動きだそうとしていると感じた彼は、ある日、不足額を勝手に息子の「スニーカー貯金」から拝借して、遂にトラックを購入したから、サンティアゴは怒り心頭に……。もちろんグレンは既にイギリスへ帰っており、イギリスへの旅費のメドがたたなくなったサンティアゴの夢は断たれたかにみえた……。

ところが、捨てる神あれば拾う神あり……。ある日、サンティアゴの前にメルセデスから差し出されたのは、メキシコを経由してのイギリス行きの航空券。これは、メルセデスがある大切なものを処分して、孫の夢を叶えるために購入したものだった。父親が帰ってくる前にというメルセデスのアドバイスどおり、サンティアゴは1人イギリスへ旅立ったが……。

物語に変化をもたせる小道具は吸入器……？

サンティアゴがチームの一員となる前提として、身体検査を受けなければならないのは当然。身体検査で主人公の男が看護師の女性と知り合うのは、映画では時々あるパターン。たとえばハリウッド大作ながら、日本についての研究不足を露呈させたあの『パール・ハーバー』(01年)の主人公たちもそうだった。その看護師役がこの映画ではロズ・ハーミソン(アンナ・フリエル)。サンティアゴはロズからの「問診」に対して、喘息であることを一瞬打ち明けられずに隠したため、これが後日さまざまな問題を引き起こすことに……。それまでにも、サンティアゴが試合の直前に吸入器を使っているのが気になっていたが、この吸入器は、サンティアゴのその後の身の振り方においても、またロズとの恋の行方においても、物語に変化をもたせる重要な小道具としての役割を……。

誘惑にはくれぐれもご用心……

サッカーでもプロ野球でも、人気選手のスキャンダル、とりわけ女性問題は週刊誌ネタとしては1番面白いものだから、スポーツ選手として大成すればするほど、それには用心しなければならない。ちなみに、「王ジャパン」を優勝させるためWBCで大活躍した巨人の上原浩治投手が、帰国直後、追突事故を起こしたことが小さな記事で新聞報道されていた。これが飲酒運転であれば大変だが、軽微な交通事故自体は仕方のないこと。しかし仮に、上原投手の車の助手席に、若く美しい女性が乗っていたとすれば、それは大スキャンダルに……？

サンティアゴの才能を見抜いたスター選手のガバン・ハリス(アレッサンドロ・ニヴォラ)にかわいがってもらうのはいいのだが、ガバンは根っからの(?)遊び人……？ したがって飲み屋から女性まで、その好意と援助がエスカ

レートしていくと、ちょっとヤバイことに……。[「ニューカッスル」]のスター選手たちをたくさん診ているロズは、スター選手となってチヤホヤされるサッカー選手が大嫌いだったから、ガバンと一緒に行ったあるパーティーでのバカ騒ぎはちょっとまずかった……。バカ騒ぎがスツパ抜かれ、4、5人の女性たちと抱き合った姿をタブロイド紙に掲載されたサンティアゴは、この苦境をどのように切り抜けるのだろうか……？

登場人物はいい人ばかり……

この映画を観ている途中で気づいたのは、この映画には悪者が1人も登場せず、みんないい人ばかりだということ。あえて悪者といえば、ライバルの出現に敵意を燃やすベテラン選手が練習中いじわるをしたり、ちょっとしたはずみで床に落とした酸素吸入器を踏んづけたりすることぐらい……。ギリギリの状況に追い込まれている「ニューカッスル」の監督であるエリク・ドーンヘルム（マーセル・ユーレス）をはじめ、高額のギャラを得て「ニューカッスル」に移籍してきたスーパースター選手のガバンたちからはもちろん、看護師のロズからもサンティアゴに対しては常に温かい目が……。たとえば練習試合で何度も失敗しながらも監督の信頼を失わないのは、何よりもサンティアゴのサッカーに対する情熱と練習に対するひたむきな姿勢が監督の心に伝わるため……。

また、1人でイングランドへ渡ってきたサンティアゴを迎えたグレンが、「ニューカッスル」でトライアルを受けることができるように、最大限の献身的努力を続けたことも言うまでもない。こんなふうに、周りがみんないい人ばかりであることに多少違和感を覚えるが、それはきっとサンティアゴの性格が良かったため。彼が周りの誰からも愛されるのは、きっと小さい時から苦勞し、懸命に生きてきたおかげ。やはり、若い時の苦勞が何よりも大切だということだ……。

最後は精神力……？

トリノオリンピックでは、フィギュアスケートの荒川静香選手の金メダル獲得で日本中が湧きに湧いたし、それが今なお続いている。しかしこれはある意味、トリノオリンピックに向けた選手強化のやり方を誤った指導部の責任追及をはぐ

らかせている効果も……？ またWBCにおける王日本の優勝は、日本列島に感動を巻き起こし、サッカーに奪われていた野球人気を取り戻すきっかけになるとまで言われているが、実はこの勝利も、ホントは、大リーグ選手(?)であるイチローと大塚晶則投手の活躍によるところ大で、もしこの2人がいなければ、あの快挙は所詮なかったもの……？

ここで私が言いたいことは、決してニッポンをけなすことではなく、個人競技に限らず、サッカーでも野球でもバレーボールでも、最終的に勝敗を決するギリギリの局面で問われるものは、技術よりも精神力つまり気持の強さだということ。その点において、ひ弱な育てられ方をしている多くの日本選手はどうしても見劣りがするというのが私の見方なのだが、さてその当否は……？

そんなふうに思えてしまうのは、この映画におけるサンティアゴの最後のシュートを観たため。ロスタイムギリギリの状況下、倒されてフリーキックの権利を得たガバンがそのキックを任せしたのは、新人のサンティアゴ。最後の唯一のチャンスにおいて、彼は勝敗を分けるゴールを決めることができるのだろうか……？ 全員の期待が彼の一蹴りにかかったが……。

これは3部作のスタート作らしいが……

この『GOAL!』はこれで完結したもので、それなりに立派な感動作となっているが、パンフレットによれば、イングランドのプレミア・リーグを描いたこの映画は、3部作の第1作となるものらしい……。

すると、第2作では、サンティアゴはチームの中心に座るスター選手として活躍しながら恋愛模様を順調に展開させ、子宝にも恵まれるものの、ケガをしたため突如どん底にというストーリー……？ そして第3作では、そのケガを乗り越えて、今やベテランとなったサンティアゴが、ワールドカップで奇跡的な復活を果たしチームに優勝をもたらすというもの……？

各自それぞれそんな勝手な想像をしながら、第2作、第3作を期待しよう……。

2006(平成18)年3月31日記